

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

佐賀医経第 1398 号  
令和 6 年 10 月 1 日  
開設者名 国立大学法人佐賀大学  
学長 兒玉 浩明

佐賀大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒840-8502 佐賀市本庄町1番地
氏名	国立大学法人佐賀大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

佐賀大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号
電話(0952)31-6511

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input checked="" type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	肝臓・糖尿病・内分泌内科	3	血液・腫瘍内科	4	ペインクリニック・緩和ケア外科	5	形成外科
6	リハビリテーション科	7	病理診断科	8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
22				580	602

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	344	6.4	350.4
歯科医師	10	0	10
薬剤師	43	0	43
保健師	0	0	0
助産師	16	0	16
看護師	681	20.4	701.4
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	3	0	3
管理栄養士	13	0	13

職種	員数
看護補助者	61
理学療法士	15
作業療法士	6
視能訓練士	4
義肢装具士	0
臨床工学士	12
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	34

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	41
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	11
その他の技術員	54
事務職員	302
その他の職員	41

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	45	眼科専門医	5
外科専門医	23	耳鼻咽喉科専門医	7
精神科専門医	4	放射線科専門医	1
小児科専門医	13	脳神経外科専門医	8
皮膚科専門医	3	整形外科専門医	13
泌尿器科専門医	9	麻酔科専門医	12
産婦人科専門医	10	救急科専門医	11
		合計	164

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 野口 満 ) 任命年月日 令和 4 年 4 月 1 日

R元年10月1日～R4年3月31日 医療安全管理委員会の委員として、医療安全管理の業務に従事

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	450.5 人	10.4 人	460.9 人
1日当たり平均外来患者数	927.9 人	46 人	973.9 人
1日当たり平均調剤数		776	剤
必要医師数		99	人

必要歯科医師数	3	人
必要薬剤師数	14	人
必要(准)看護師数	246	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

#### 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	326.38 ㎡	鉄筋コンクリート	病床数	16 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	128.66 ㎡	病床数	9 床	
	[移動式の場合]	台数	6 台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	44 ㎡			
	[共用室の場合]	共用する室名	無			
化学検査室	261 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動血液分析機、自動生化学分析器		
細菌検査室	81 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動塗布装置、自動薬剤感受性検査装置		
病理検査室	214 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動包埋装置、クリオスタット		
病理解剖室	53 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	特殊解剖台、特殊型計量測定運搬車		
研究室	1,519 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	顕微鏡、遠心機、培養装置、パソコン		
講義室	2,047 ㎡	鉄筋コンクリート	室数 15 室	收容定員	1,555 人	
図書室	629 ㎡	鉄筋コンクリート	室数 4 室	蔵書数	107,000 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	86.9	%	逆紹介率	92.8	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		11,043 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,906 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,976 人		
	D: 初診の患者の数		14,990 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
綾部 貴典	宮崎大学医学部附属病院	○	医療機関において、医療安全に関する業務若しくは医療安全に係る研究に従事した経験を有する者	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
前川 律子	公益社団法人佐賀県看護協会		医療機関において、医療安全に関する業務若しくは医療安全に係る研究に従事した経験を有する者	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
岩永 幸三	認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	病院ホームページの「病院案内」の中で「医療安全監査委員会」として専用ページを設け、関係規程等を掲載している。





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	該当なし	取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	0
扱い患者数の合計(人)	0



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	71	リンパ脈管筋腫症	7
2	筋萎縮性側索硬化症	31	72	網膜色素変性症	15
3	脊髄性筋萎縮症	3	73	原発性胆汁性胆管炎	19
4	進行性核上性麻痺	8	74	原発性硬化性胆管炎	3
5	パーキンソン病	51	75	自己免疫性肝炎	7
6	大脳皮質基底核変性症	5	76	クローン病	143
7	ハンチントン病	2	77	潰瘍性大腸炎	241
8	シャルコー・マリー・トウス病	4	78	好酸球性消化管疾患	3
9	重症筋無力症	51	79	若年性特発性関節炎旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	5
10	多発性硬化症/視神経脊髄炎	55	80	先天性ミオパチー	2
11	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	16	81	筋ジストロフィー	2
12	封入体筋炎	2	82	アトピー性脊髄炎	2
13	クドウ・深瀬症候群	3	83	アイザックス症候群	1
14	多系統萎縮症	3	84	遺伝性ジストニア	1
15	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	13	85	前頭側頭葉変性症	3
16	ライゾーム病	5	86	限局性皮質異形成	1
17	副腎白質ジストロフィー	1	87	ドラベ症候群	1
18	ミトコンドリア病	11	88	レノックス・ガストー症候群	2
19	もやもや病	45	89	ウエスト症候群	1
20	プリオン病	6	90	ランドウ・クレフナー症候群	1
21	亜急性硬化性全脳炎	3	91	レット症候群	1
22	HTLV-1関連脊髄症	12	92	結節性硬化症	7
23	全身性アミロイドーシス	53	93	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	4
24	遠位型ミオパチー	1	94	特発性後天性全身性無汗症	1
25	神経線維腫症	17	95	弾性線維性仮性黄色腫	1
26	天疱瘡	10	96	マルファン症候群	2
27	膿疱性乾癬(汎発型)	10	97	エーラス・ダンロス症候群	1
28	中毒性表皮壊死症	2	98	ウィルソン病	3
29	高安動脈炎	16	99	ウィリアムズ症候群	1
30	巨細胞性動脈炎	2	100	無脾症候群	2
31	結節性多発動脈炎	6	101	プラダー・ウィリ症候群	2
32	顕微鏡的多発血管炎	29	102	修正大血管転位症	2
33	多発血管炎性肉芽腫症	33	103	完全大血管転位症	1
34	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	21	104	単心室症	5
35	悪性関節リウマチ	10	105	左心低形成症候群	2
36	バージャー病	3	106	三尖弁閉鎖症	2
37	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	107	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1
38	全身性エリテマトーデス	225	108	ファロー四徴症	4
39	皮膚筋炎/多発性筋炎	94	109	アルポート症候群	3
40	全身性強皮症	59	110	急速進行性糸球体腎炎	3
41	混合性結合組織病	34	111	抗糸球体基底膜腎炎	2
42	シェーグレン症候群	54	112	一次性ネフローゼ症候群	38
43	成人スチル病	14	113	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
44	再発性多発軟骨炎	6	114	紫斑病性腎炎	2
45	ベーチェット病	34	115	副甲状腺機能低下症	1
46	特発性拡張型心筋症	26	116	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	4
47	肥大型心筋症	6	117	フェニルケトン尿症	1
48	拘束型心筋症	1	118	尿素サイクル異常症	2
49	再生不良性貧血	21	119	肝型糖原病	1
50	自己免疫性溶血性貧血	2	120	家族性地中海熱	3
51	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3	121	強直性脊椎炎	22
52	特発性血小板減少性紫斑病	36	122	後天性赤芽球癆	2
53	原発性免疫不全症候群	9	123	エプスタイン症候群	1
54	IgA腎症	46	124	クローンカイト・カナダ症候群	1
55	多発性嚢胞腎	27	125	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
56	黄色靱帯骨化症	17	126	IgG4関連疾患	8
57	後縦靱帯骨化症	22	127	好酸球性副鼻腔炎	22
58	広範脊柱管狭窄症	9	128	先天異常症候群	1
59	特発性大腿骨頭壊死症	131	129	大理石骨病	1
60	下垂体性ADH分泌異常症	11	130	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	3
61	下垂体性TSH分泌亢進症	2	131	特発性多中心性キャスルマン病	3
62	下垂体性PRL分泌亢進症	9	132		
63	クッシング病	3	133		
64	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	15	134		
65	下垂体前葉機能低下症	48	135		
66	先天性副腎皮質酵素欠損症	1	136		

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

67	サルコイドーシス	53	137		
68	特発性間質性肺炎	17	138		
69	肺動脈性肺高血圧症	9	139		
70	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4	140		

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	131
合計患者数(人)	2226

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・感染対策向上加算1、指導強化加算、抗菌薬適正使用体制加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・患者サポート体制充実加算
・歯科外来診療感染対策加算3	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科診療特別対応連携加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1)	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料(精神病棟13対1)	・呼吸ケアチーム加算
・救急医療管理加算	・後発医薬品使用体制加算1
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・診療録管理体制加算2	・データ提出加算2イ
・医師事務作業補助体制加算1(25対1)	・入退院支援加算1、入院時支援加算
・25対1急性期看護補助体制加算(看護補助者5割以上)	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・夜間100対1急性期看護補助体制加算	・精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算(夜間看護体制加算)	・精神科急性期医師配置加算
・急性期看護補助体制加算(看護補助体制充実加算)	・排尿自立支援加算
・看護職員夜間12対1配置加算1	・看護職員処遇改善評価料62
・看護補助加算2	・地域医療体制確保加算
・療養環境加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・重症者等療養環境特別加算	・救命救急入院料3
・無菌治療室管理加算1	・特定集中治療室管理料2
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料6
・緩和ケア診療加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・精神科身体合併症管理加算	・小児入院医療管理料2
・精神科リエゾンチーム加算	・入院時食事療養(Ⅰ)
・摂食障害入院医療管理加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料(注2)	・肝炎インターフェロン治療計画料
・外来栄養食事指導料(注3)	・薬剤管理指導料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・医療機器安全管理料1
・糖尿病合併症管理料	・医療機器安全管理料2
・がん性疼痛緩和指導管理料	・精神科退院時共同指導料
・がん性疼痛緩和指導管理料(注2 難治性がん性疼痛緩和指導管理加算)	・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・がん患者指導管理料イ	・在宅酸素療法指導管理料(注2 遠隔モニタリング加算)
・がん患者指導管理料ロ	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・がん患者指導管理料ハ	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・がん患者指導管理料ニ	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・外来緩和ケア管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・遺伝学的検査(注1)
・糖尿病透析予防指導管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
・婦人科特定疾患治療管理料	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)
・腎代替療法指導管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・下肢創傷処置管理料	・先天性代謝異常症検査
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・外来放射線照射診療料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・外来腫瘍化学療法診療料1	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)
・連携充実加算(外来腫瘍化学療法診療料)	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
・ニコチン依存症管理料	・検体検査管理加算(IV)
・療養・就労両立支援指導料(注3 相談支援加算)	・国際標準検査管理加算
・がん治療連携計画策定料	・遺伝カウンセリング加算
・外来排尿自立指導料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・心臓MRI撮影加算
・胎児心エコー法	・乳房MRI撮影加算
・ヘッドアップティルト試験	・小児鎮静下MRI撮影加算
・人工臓臓検査・人工臓臓療法	・頭部MRI撮影加算
・単線維筋電図	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・脳波検査判断料1	・外来化学療法加算1
・神経学的検査	・無菌製剤処理料
・補聴器適合検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)、初期加算
・全視野精密網膜電図	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)、初期加算
・ロービジョン検査判断料	・運動器リハビリテーション料(I)、初期加算
・小児食物アレルギー負荷試験	・呼吸器リハビリテーション料(I)、初期加算
・内服・点滴誘発試験	・がん患者リハビリテーション料
・経頸静脈的肝生検	・集団コミュニケーション療法料
・CT透視下気管支鏡検査加算	・経頭蓋磁気刺激療法
・経気管支凍結生検法	・認知療法・認知行動療法
・精密触覚機能検査	・医療保護入院等診療料
・睡眠時歯科筋電図検査	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
・画像診断管理加算4	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・多血小板血漿処置
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・硬膜外自家血注入
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・人工腎臓
・CT撮影及びMRI撮影	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・冠動脈CT撮影加算	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・外傷全身CT加算	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・ストーマ合併症加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・口腔粘膜処置	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・う蝕歯無痛の窩洞形成加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に限る)下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に限る)
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1)
・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算2)
・皮膚移植術(死体)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る)	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・気管支バルブ留置術
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・角膜移植術(内皮移植加算)	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・羊膜移植術	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・胸腔鏡下弁形成術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・胸腔鏡下弁置換術
・網膜再建術	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・経皮的僧帽弁クリップ術
・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・経皮的カテーテル心筋焼灼術における磁気ナビゲーション加算	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下腓中央切除術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・腹腔鏡下副腎摘出手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出手術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・補助人工心臓	・同種死体腎移植術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・生体腎移植術
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・尿道狭窄グラフト再建術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・人工尿道括約筋植込・置換術
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・精巣温存手術
・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・腹腔鏡下仙骨隆固定術
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・腹腔鏡下仙骨隆固定手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下肝切除術	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・体外式膜型人工肺管理料	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1	・画像誘導密封小線源治療加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1	・病理診断管理加算2
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に規定する手術)	・口腔病理診断管理加算2
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る)	・看護職員処遇改善評価料
・輸血管理料Ⅱ	・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・自己生体組織接着剤作成術	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・入院ベースアップ評価料
・同種クリオプレシピテート作製術	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・歯周組織再生誘導手術	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・レーザー機器加算	
・麻酔管理料(Ⅰ)	
・麻酔管理料(Ⅱ)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療(IGRT)	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・定位放射線治療	





## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
COPD患者における骨格筋-腸内細菌叢連関と新規リハビリテーション介入手法の開発	高橋 浩一郎	呼吸器内科	1,300,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
がんゲノム検査で得られたゲノム情報の解析と薬効評価システムの構築	荒金 尚子	呼吸器内科	1,560,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
酪酸誘導による腸内細菌叢を標的とした肥満喘息の制御	田代 宏樹	呼吸器内科	1,430,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
スモンに関する調査研究	小池 春樹	脳神経内科	300,000	補 委	厚生労働行政推進調査事業費補助金
アミロイドーシスに関する調査研究	小池 春樹	脳神経内科	400,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者の QOL 向上に資する研究	小池 春樹	脳神経内科	400,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金
自己免疫性自律神経障害の全国調査、診断基準策定、国際的な総意形成	小池 春樹	脳神経内科	60,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金
マクロファージに着目したCIDPの病態解明と新規治療法の開発	小池 春樹	脳神経内科	1,820,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
遺伝子多型がTotal SVD scoreと脳心血管イベントに与える影響の解明	鈴木 耕平	脳神経内科	910,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
成人T細胞白血病・リンパ腫の新規発症予測法の開発	勝屋 弘雄	血液・腫瘍内科	910,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
NUAK阻害剤を用いたGVHD/GVLの選択的免疫抑制	板村 英和	血液・腫瘍内科	2,470,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
3次元心エコー図を用いた奇異性低圧較差重症大動脈弁狭窄症における自然歴の解明	鍋嶋 洋裕	循環器内科	520,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
心房細動症例における心房生検検体の超微細構造の評価	高橋 佑弥	循環器内科	2,080,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
心房細動症例における心房筋の組織学的評価	山口 尊則	循環器内科	520,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
急性心筋梗塞の超急性期臨床指標を用いた汎用型予後予測モデルの開発	田中 敦史	循環器内科	1,040,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
血管不全の生化学的診断指針の策定	野出 孝一	循環器内科	910,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
ウルトラファインバブル技術を応用した新規血液酸素化法の開発	宮園 素明	腎臓内科	780,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	江崎 幹宏	消化器内科	200,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
潰瘍性大腸炎慢性化機序の解明と新たな治療戦略の構築	坂田 資尚	消化器内科	1,430,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
難治性炎症性腸疾患における慢性化機序解明とそれを反映するバイオマーカーの開発	武富 啓展	消化器内科	1,430,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究(J-DREAMS)	安西 慶三	肝臓・糖尿病・内分泌内科	300,000	補委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
適切な医薬品安全性評価のための国際整合化を考慮した医療情報データベースの品質管理・標準化に関する研究	安西 慶三	肝臓・糖尿病・内分泌内科	2,600,000	補委	厚生労働行政推進調査事業費補助金
ネットワーク社会における地域の特性に応じた肝疾患診療連携体制構築に資する研究	磯田 広史	肝臓・糖尿病・内分泌内科	1,000,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
様々な生活の場における肝炎ウイルス感染者の人権への望ましい配慮に関する研究	磯田 広史	肝臓・糖尿病・内分泌内科	700,000	補委	厚生労働行政推進調査事業費補助金
オーダーメイドな肝炎ウイルス感染防止・重症化予防戦略の確立に資する研究	磯田 広史	肝臓・糖尿病・内分泌内科	500,000	補委	厚生労働行政推進調査事業費補助金
多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究	高橋 宏和	肝臓・糖尿病・内分泌内科	1,500,000	補委	厚生労働行政推進調査事業費補助金
肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につなげる方策の確立に資する研究	高橋 宏和	肝臓・糖尿病・内分泌内科	1,000,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
サルコペニアがNAFLDの肝病態に与える影響についての検討	桑代 卓也	肝臓・糖尿病・内分泌内科	1,170,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
in vivoにおけるウイルス感染誘導性膵β細胞脱分化メカニズムの解明	三根 敬一郎	肝臓・糖尿病・内分泌内科	1,040,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
膵脂肪化・膵線維化の定量化の意義と膵発癌との関連	田中 賢一	肝臓・糖尿病・内分泌内科	1,560,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
3型自然リンパ球の皮膚炎と皮膚バリアにおよぼす影響の解明	杉田 和成	皮膚科	1,040,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
食道扁平上皮癌に対する蛋白フルネシル化に着目した新規治療開発に向けた基礎的研究	田中 智和	一般・消化器外科	1,690,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
遠隔臓器における微小環境誘導性転移腫瘍細胞セレクション機序の解明とその制御	武居 晋	一般・消化器外科	1,430,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
バイオ3Dプリンタを用いた冠動脈バイパス術に最適な次世代型細胞製人工血管の開発	伊藤 学	心臓血管外科	5,590,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
バイオ3Dプリンタ、幹細胞技術を用いた下肢遠位動脈バイパス用小口径人工血管の開発	伊藤 学	心臓血管外科	10,660,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
バイオ3Dプリンタ技術を用いた細胞製人工弁膜の開発	蒲原 啓司	心臓血管外科	910,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
脳腫瘍のH3K27M変異をターゲットにした新規治療法の開発	阿部 竜也	脳神経外科	1,300,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
DIF-1によるMycを標的とした新たな髄芽腫治療研究	伊藤 寛	脳神経外科	1,690,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
可溶性エポキシドヒドロラーゼ阻害ワクチンによる脳梗塞治療の開発	増岡 淳	脳神経外科	1,170,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
DNA脱メチル化酵素TETをターゲットとした革新的治療法の開発	中原 由紀子	脳神経外科	1,950,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
特発性大腿骨頭壊死症の確定診断と重症度判定の向上に資する大規模多施設研究	馬渡 正明	整形外科	100,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金
骨折モデルの治癒過程におけるストレス応答キープレイヤーNupr1の作用とその機序	馬渡 正明	整形外科	3,250,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	森本 忠嗣	整形外科	400,000	補 委	厚生労働行政推進調査事業費補助金
変形性足関節症の病態解明と理想的な矯正骨切り術の確立を目指した生体力学的研究	坂井 達弥	整形外科	1,430,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
機能的骨盤傾斜に注目した寛骨臼形成不全の病態解明と骨形態矯正アルゴリズムの確立	藤井 政徳	整形外科	1,430,000	補 委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
バイオ3Dプリンタを用いて広範囲骨欠損再建法の確立を目指す研究	馬渡 大介	整形外科	1,170,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
時計遺伝子DEC1による骨芽細胞への影響に関する研究—骨粗鬆症治療の新たな標的	平田 寛人	整形外科	1,300,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
尿道下裂動物モデルを用いた尿道狭窄抑制デバイスの効果およびその作用機序の解明解析	東武 昇平	泌尿器科	1,300,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
糖尿病患者の足根管症候群に対する脛骨神経除圧に関する研究(大切断回避の予防戦略)	上村 哲司	形成外科	1,040,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
エピゲノム修飾因子NSD1変異によるDNAメチル化と遺伝子発現異常メカニズム解明	渡邊 英孝	形成外科	1,820,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
膠原病関連間質性肺炎の表現型と自己抗体発現における関連性評価と進行性予測	江頭 玲子	放射線科	2,470,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
ultrafast MRIによる乳癌微小環境サブタイプ分類の診断基準の確立	山口 健	放射線科	1,820,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
頸部放射線誘発線維症の定量的評価—新たな線量制約の確立と臨床応用	大石 光寿	放射線科	130,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究	浅見 豊子	リハビリテーション科	9,100,000	補委	厚生労働行政推進調査事業費補助金
高齢者うつ病および認知症における脳内ミクログリアの機能の共通点と相違点	溝口 義人	精神神経科	1,690,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
オキシトシンの治療応用を目指した慢性痛の心理社会的要因と生化学的指標との関連研究	松島 淳	精神神経科	910,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
コロナ禍の心理ストレスが高齢者の2年後のうつ状態、認知機能低下に与える影響	國武 裕	精神神経科	1,430,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
神経皮膚症候群および色素性乾皮症・ポルフィリン症の学際的診療体制に基づく医療最適化と患者 QOL 向上のための研究	松尾 宗明	小児科	1,000,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
早老症のエビデンス集積を通じて診療の質と患者QOLを向上する全国研究	松尾 宗明	小児科	200,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
腸内細菌叢からのアプローチ「ピロリ菌と自閉症スペクトラム症」の相関関係の解明	垣内 俊彦	小児科	1,300,000	補委	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
Kleine-Levin症候群の実態調査及び病態解明に関する研究	中村 拓自	小児科	1,690,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
子どもの視空間注意の神経基盤の解明～縦断的コホート研究～	實藤 雅文	小児科	1,300,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
トロンボエラストグラフィを用いたTAVI周術期の凝固止血能モニタリング	山田 康貴	麻酔科蘇生科	1,300,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
口腔扁平上皮がんの顎骨浸潤におけるPlectinの機能	水田 奏	麻酔科蘇生科	1,430,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
あらたな高解像度光干渉断層計(OCT)の開発による後眼部精密画像診断の可能性探索	江内田 寛	眼科	1,040,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
高電圧パルス電流併用干渉波電気刺激および薬物療法による統合的嚙下障害治療の研究	杉山 庸一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,040,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
喉頭癌組織における樹状細胞の役割と臨床的意義の解明	峯崎 晃充	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
間葉系幹細胞の細胞・分泌因子を応用した新規口腔がん治療法の開発研究	合島 怜央奈	歯科口腔外科	1,560,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
大気圧プラズマによる抗腫瘍効果と免疫賦活化を利用した新規口腔がん治療法の開発	山下 佳雄	歯科口腔外科	910,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
子宮頸部円錐切除後の頸管狭窄を予防する新たな治療法の開発	橋口 真理子	病理診断科	1,170,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
微小環境を構成する多因子に着目した悪性黒色腫の病態に及ぼす生物学的作用の解明	青木 茂久	病理診断科	1,820,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
DPCデータと看護必要度を統合した次世代AIシステムによる看護支援手法の評価	阪本 雄一郎	高度救命救急センター	1,170,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
重症外傷患者に対する大量輸血療法に伴う補体活性化と輸血副反応への影響	小網 博之	高度救命救急センター	2,600,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
外傷患者のせん妄予測モデル構築と長期認知機能解明	松岡 綾華	高度救命救急センター	1,300,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
善玉菌モニタリングによる、重症病態における新たな消化管蘇生戦略の開発	中山 賢人	高度救命救急センター	260,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
入院時の評価項目6つを用いた簡便な転倒傷害予測モデルの検証と改良	香月 尚子	総合診療部	1,820,000	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
熱源不明の症例に対する感染性心内膜炎予測スコアの外部検証:多施設前向き観察研究	山下 駿	総合診療部	1,300,000	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
寝たきり度を用いた院内転倒予測モデルの多様な医療機関での検証と実用化に関する研究	多胡 雅毅	総合診療部	4,290,000	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
脂肪組織-瞬癌相互作用におけるIRF9の役割と臨床的相関の解析	芥川 剛至	光学医療診療部	2,340,000	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
グルココルチコイド代謝酵素を標的とした疫学的手法による糖尿病の合併症予防戦略	島ノ江 千里	薬剤部	1,040,000	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
人工知能機械学習を応用した高精度周術期休薬判断アルゴリズムの構築	木村 早希子	薬剤部	1,170,000	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
「HTLV-1総合対策」推進におけるキャリア対策の基盤整備と適正な研究開発の推進に資する包括的評価と提言のための研究	末岡 榮三朗	輸血部	100,000	補 委 厚生労働行政推進調査事業費補助金

計 82件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Andriko Palmowski, Mitsuteru Akahoshi, Burkhard Muche et al.	膠原病・リウマチ内科	No association between methotrexate and impaired bone mineral density in a cohort of patients with polymyalgia rheumatica, giant cell arteritis, granulomatosis with polyangiitis and other vasculitides—a cross-sectional analysis with dose-response analyses	Rheumatology International 43(5):903-909、202305	Original Article
2	Takahashi K, Kawayama T, Takamori A et al.	呼吸器内科	Efficacy and safety of once-daily single-inhaler triple therapy for mild-to-moderate chronic obstructive pulmonary disease: a study protocol for a randomised and interventional study	BMJ Open Respiratory Research, 10, 1, e001607:、202305	Original Article
3	Tashiro H, Takahashi K, Komiya N et al.	呼吸器内科	Pleural lymphoma combined with pleural sarcoidosis	Respir Investig . 61(6):698-701、202311	CaseReport
4	Tashiro H, Kuwahara Y, Takahashi K et al.	呼吸器内科	Response	Chest, 163(6):e286.、202306	CaseReport
5	Tashiro H, Kurihara Y, Kuwahara Y et al.	呼吸器内科	Impact of obesity in asthma: Possible future therapies.	Allergol Int. 2024 Jan;73(1):48-57.、202401	Review
6	Ogusu S, Harutani Y, Tozuka T et al.	呼吸器内科	Second-line immunosuppressant administration for steroid-refractory immune-related adverse events in patients with lung cancer	Cancer Immunol Immunother. 2023 Nov;72(11):3765-3772.、202311	Original Article
7	Toshihiro Ide, Yusuke Yakushiji, Kohei Suzuyama et al.	脳神経内科	Associations for progression of cerebral small vessel disease burden in healthy adults: the Kashima scan study.	Hypertens Res. Epub ahead of print. PMID: 37673959.、202402	Original Article
8	Ide T, Yuta G, Masashi N et al.	脳神経内科	Co-occurrence of subacute combined degeneration of the spinal cord and neuromyelitis optica spectrum disorder.	Acta Neurol Belg. Epub ahead of print. PMID: 37980328.、202311	Original Article
9	Ide T, Kawanami T, Tada Y et al.	脳神経内科	Overlapping rheumatoid meningitis with anti-N-methyl-D-aspartate receptor encephalitis: A case report.	Clin Case Rep. 2023 Apr 22;11(4):e7199. doi: 10.1002/ccr3.7199. PMID: 37155424; PMCID: PMC10122683.、202304	CaseReport
10	Suzuyama K, Eriguchi M, Minagawa H et al.	脳神経内科	Accumulation Area of a Japanese PRNP P102L Variant Associated With Gerstmann-Sträussler-Scheinker Disease: The Ariake PRNP P102L Variant.	J Clin Neurol、202403	Original Article



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
11	Yukiko Nagaishi, Daiki Murata, Hiromu Yoshizato et al.	脳神経内科	Scaffold-free human vascular calcification model using a bio-three-dimensional printer	Biofabrication, 15, 202307	Original Article
12	Masaaki Yoshikawa, Kenji Sekiguchi, Hirotomo Suehiro et al.	脳神経内科	Nerve enlargement differs among chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy subtypes and multifocal motor neuropathy	Clin Neurophysiol Pract. 22:8:228-234., 202311	Original Article
13	Katsuya H, Nakamura H, Maeda A et al.	血液・腫瘍内科	HTLV-1 cell-free DNA in plasma as a potential biomarker in HTLV-1 carriers and adult T-cell leukemia-lymphoma	eJHaem 4(3):733-737, 202305	Original Article
14	Katsuya H, Suzumiya J, Kimura S	血液・腫瘍内科	Clinical PD-1/PD-L1 Blockades in Combination Therapies for Lymphoma	Cancers 15(22):5399-5413, 202311	Review
15	Katsuya H, Yamaguchi K, Dung TC et al.	血液・腫瘍内科	Late graft failure with donor-derived GPI-deficient cells in a mixed chimera following allogeneic bone marrow transplantation for severe aplastic anemia	Bone Marrow Transplantation 58(4):465-468, 202304	Review
16	Yamamoto Y, Saita T, Kataoka H et al.	血液・腫瘍内科	Localization of sites of osimertinib action in rat intestine, skin, and lung by immunohistochemistry	Acta Histochem Cytochem, 56(6):145-151., 202312	Original Article
17	Sonoda S, Node K	循環器内科	Fighting calcification with optical coherence tomography-guided percutaneous coronary intervention. Commentary on the optical coherence tomography-derived predictors of stent expansion in calcified lesions	Catheter Cardiovasc Interv. 2023 Aug;102(2):394-395. doi: 10.1002/ccd.30776. Epub 2023 Jul 20., 202308	Original Article
18	Sonoda S, Node K	循環器内科	Grasp of Fate: Determining the Prognosis of Plaque Erosion?	J Atheroscler Thromb. 2024 Jan 1;31(1):15-16. doi: 10.5551/jat.ED244. Epub 2023 Oct 24., 202401	Original Article
19	Sonoda S, Node K	循環器内科	Intravascular Ultrasound-Guided Percutaneous Coronary Intervention: Practical Application.	Interv Cardiol Clin. 2023 Apr;12(2):167-175. doi: 10.1016/j.iccl.2022.12.001., 202304	Review
20	Takahashi Y, Yamaguchi T, Otsubo T et al.	循環器内科	Histological validation of atrial structural remodelling in patients with atrial fibrillation	Eur Heart J. 2023 Sep 14;44(35):3339-3353. doi: 10.1093/eurheartj/ehad396., 202309	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
21	Tanaka A, Okada Y, Torimoto K et al.	循環器内科	Effect of ipragliflozin on endothelial dysfunction in patients with type 2 diabetes and chronic kidney disease: A randomized clinical trial (PROCEED)	Diabetes Metab. 2023 Jul;49(4):101447. doi: 10.1016/j.diabet.2023.101447. Epub 2023 Apr 26., 202307	Original Article
22	Tanaka A, Imai T, Toyoda S et al.	循環器内科	Long-term observation of estimated fluid volume reduction after the initiation of ipragliflozin in patients with type 2 diabetes mellitus: a sub-analysis from a randomized controlled trial (PROTECT)	Diabetol Metab Syndr. 2023 Jul 7;15(1):152. doi: 10.1186/s13098-023-01129-3., 202307	Original Article
23	Tanaka A, Taguchi I, Hisauichi I et al.	循環器内科	Clinical effects of a selective urate reabsorption inhibitor dotinurad in patients with hyperuricemia and treated hypertension: a multicenter, prospective, exploratory study (DIANA)	Eur J Med Res. 2023 Jul 17;28(1):238. doi: 10.1186/s40001-023-01208-1., 202307	Original Article
24	Tanaka A, Shibata H, Imai T et al.	循環器内科	Rationale and design of an investigator-initiated, multicenter, prospective, placebo-controlled, double-blind, randomized trial to evaluate the effects of finerenone on vascular stiffness and cardiorenal biomarkers in type 2 diabetes and chronic kidney disease (FIVE-STAR)	Cardiovasc Diabetol. 2023 Jul 31;22(1):194. doi: 10.1186/s12933-023-01928-y., 202307	Original Article
25	Tanaka A, Kinugawa K, Kuwahara K et al.	循環器内科	Recommendation for Appropriate Use of Sodium Glucose Cotransporter 2 Inhibitors in Treatment of Heart Failure	Circ J. 2023 Oct 25;87(11):1707-1709. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0605. Epub 2023 Sep 22., 202310	Original Article
26	Tanaka A, Yajima A, Kitaoka K et al.	循環器内科	Blood pressure in Japanese junior and senior high school students	2024 Jan;47(1):195-196. doi: 10.1038/s41440-023-01498-2. Epub 2023 Nov 8., 202401	Original Article
27	Nabeshima Y, Kitano T, Node K et al.	循環器内科	Prognostic value of right ventricular free-wall longitudinal strain in patients with pulmonary hypertension: systematic review and meta-analyses.	Open Heart. 2024 Feb 7;11(1):e002561. doi: 10.1136/openhrt-2023-002561. PMID: 38325907; PMCID: PMC10860115., 202402	Original Article
28	Koichi Node, Atsushi Tanaka	循環器内科	Coronary Syndrome: Clinical Treatment, Prevention and Management for Better Outcomes	Jounal of Clinical Medicine, 202306	Original Article
29	Yokoi K, Katsuki T, Yamaguchi T et al.	循環器内科	Pulmonary Vein Intervention for Severe Pulmonary Vein Stenosis After Atrial Fibrillation Ablation - A Retrospective Cohort Study.	Circ J. 2024 Mar 16. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0892. Epub ahead of print. PMID: 38494711., 202403	Original Article
30	Yoshioka G, Sonoda S, Nagao M et al.	循環器内科	Lotus Root-Like Appearance at the Radial Artery in a Buerger-Like Disease Patient	JACC Cardiovasc Interv. 2023 Sep 11;16(17):2183-2184. doi: 10.1016/j.jcin.2023.06.036. Epub 2023 Aug 9., 202309	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
31	Nishimura Y, Takahashi Y, Yokoi K et al.	循環器内科	Transcatheter Biopsy of Primary Cardiac Tumors Guided by Echocardiographic and Fluoroscopic Imaging	Circ J. 2023 Dec 25;88(1):175. doi: 10.1253/circj.CJ-23- 0819. Epub 2023 Nov 25.、202312	Original Article
32	Takedomi H, Akutagawa T, Esaki M	消化器内科	Crystal-storing histiocytosis of the rectum possibly associated with chronic mucosal inflammation by ulcerative colitis	Dig Endosc (IF: 7.56; Q1) . 2023 May;35(4):538. doi: 10.1111/den.14526. Epub 2023 Feb 21.、 202305	CaseReport
33	Nagafuch S, Mine K, Shiratsuchi T et al.	肝臓・糖尿病・内分泌内科	Excellent Blood Glucose Levels for 5 Years with Well Main tained Insulin Secretion by the Treatment Comprising a Once-Weekly Injection of Dulaglutide: GLP- 1RA Alone in a Patient with Type 2 Diabetes Mellitu	Austin J Endocrinol Diabetes. 2023; 10(1)、 202310	CaseReport
34	Kamura M, Inoue T, Sugita K	皮膚科	Psoriasis vulgaris associated with primary biliary cholangitis: IL-23 links skin manifestations and liver function	Eur J Dermatol. 2023 Apr 1;33(2):170-172.、202304	CaseReport
35	Takao Ide *, Kotaro Ito, Tomokazu Tanaka et al.	一般・消化器外科	Robotic distal pancreatectomy using a docking-free system (the hinotori™ Surgical Robot System) Surgical Robot System)	Surgical Oncology 50 (2023) 101974 journal homepage: www.elsevier.com/locate/ suronc、202310	CaseReport
36	Tomokazu Tanaka, Takao Ide, Kotaro Itoh et al.	一般・消化器外科	Laparoscopic liver resection for local recurrence after carbon-ion radiotherapy for hepatocellular carcinoma: A case report	Oncol Lett . 2023 Dec 28;27(2):78. doi: 10.3892/ol.2023.14211. eCollection 2024 Feb.、 202312	CaseReport
37	Kazuki Tomihara1*, Takao Ide1, Kotaro Ito1 et al.	一般・消化器外科	Robotic spleen-preserving distal pancreatectomy using the first domestic surgical robot platform (the hinotori™ SurgicalRobot System): a case report	Surgical Case Reports Tomihara et al. Surgical Case Reports (2024) 10:22 https://doi.org/10.1186/ s40792-024-01808-x、 202401	CaseReport
38	Hirokazu Noshiro, Tatsuya Manabe, Yukie Yoda et al.	一般・消化器外科	Secure Robotic Transthoracic Valvuloplastic Esophagogastrostomy by Double Flap Technique in Esophagogastric Junctional Cancer Surgery	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech . 2023 Apr 1;33(2):129- 132. doi: 10.1097/SLE.0000000000 001150.、202304	Original Article
39	Kotaro Ito, Takao Ide, Tomokazu Tanaka et al.	一般・消化器外科	A surgical case of inflammatory pseudotumor by hepatic anisakiasis	Clin J Gastroenterol . 2023 Dec 12. doi: 10.1007/s12328-023- 01891-x. Online ahead of print.、202402	CaseReport
40	Shohei Matsufuji, Yoshihiko Kitajima, Kazuki Higure et al.	一般・消化器外科	A HIF-1 $\alpha$ inhibitor combined with palmitic acid and L-carnitine treatment can prevent the fat metabolic reprogramming under hypoxia and induce apoptosis in hepatocellular carcinoma cells	Cancer Metab . 2023 Dec 8;11(1):25. doi: 10.1186/s40170- 023-00328-w.、202312	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
41	MasatsuguHiraki, ToshiyaTanaka, HirofumiSato et al.	一般・消化器外科	The analysis of fecal calprotectin as a diagnostic marker for anastomotic leakage after rectal cancer surgery: a pilot study.	Journal of Surgical Case Reports, 2023, 1-5、202307	CaseReport
42	NAOFUMI MIYAHARA, MASAFUMI HIRATSUKA , YUSUKE OKAMOTO et al.	呼吸器外科	Is the preoperative prognostic Nutritional Index a Useful Marker for the Decision to Perform Limited Resecton in High-risk Patients With Stage I Non-small Cell Lung Cancer?	ANTICANCER RESEARCH 43:3659-3664、202308	Original Article
43	Junji Yunoki, Shigeki Morita, Nagi Hayashi et al.	心臓血管外科	The comparison of the clinical outcomes and costs between surgical aortic valve replacement and transcatheter aortic valve implantation based on the Japanese Diagnosis Procedure Combination database	Surg Today.54(3):240-246、202403	Original Article
44	Junji Yunoki, Nagi Hayashi, Jun Osaki et al.	心臓血管外科	Endovascular aneurysm repair supported by intraoperative holographic image using virtual reality technology.	Journal of vascular surgery、202402	Others
45	Ogata A, Furukawa T, Yoshioka F et al.	脳神経外科	Three-Dimensional (3D) Microcatheter Shaping Using Touch Screen Devices for Cerebral Aneurysm Coil Embolization.	World Neurosurg. 2023 Dec 13;S1878-8750(23)01774-6. doi: 10.1016/j.wneu.2023.12.053. Online ahead of print、202402	Original Article
46	Ogata A, Ogasawara K, Nishihara M et al.	脳神経外科	Subarachnoid iodine leakage on dual-energy computed tomography after mechanical thrombectomy is associated with malignant brain edema	J Neurointerv Surg. 2024 Mar 13、202403	Original Article
47	Masuoka J, Yoshioka F, Inoue K et al.	脳神経外科	Pituitary adenoma presenting as isolated oculomotor nerve palsy.	Surgical Neurology International. 2023 · 14(305) DOI 10.25259/SNI_421_2023、202309	CaseReport
48	Hirata H, Morimoto T, Tsukamoto M et al.	整形外科	Pediatric chance fracture with seatbelt syndrome:A case report	Clin Case Rep.2023 sep 21;11(9):e7886.doi:10.1002/ccr3.7886.、202309	CaseReport
49	Hirata H, Morimoto T, Tsukamoto M et al.	整形外科	Insights and preventive approaches of rod erosion in the occipital bone after complex posterior cervical spine surgery for destructive spondyloarthropathy:A case report.	Medicine(Baltimore).2024 Feb 16;103(7):e37143.doi: 10.1097/MD.00000000000037143.、202402	CaseReport
50	Morimoto T, Tsukamoto M, Aita K et al.	整形外科	First clinical experience with posterior lumbar interbody fusion using a thermal-sprayed silver-containing hydroxyapatitecoated cage.	J Orthop Surg Res. 2023 May 30;18(1):392.doi:10.1186/s13018-023-03882-7.、202305	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
51	Morimoto T, Kobayashi T, Yamauchi K et al.	整形外科	How long will it take to reach the gender diversity goal for orthopaedics in Japan?	J Orthop Sci.2023 Jun 10.S0949-2658(23)000139-2.doi:10.1016/j.jos.2023.05.011.、202306	Original Article
52	Morimoto T, Kobayashi T, Kakiuchi T et al.	整形外科	Gut-spine axis:a possible correlation between gut microbiota and spinal degenerative diseases.	Front Microbiol.2023 Oct27;14:1290858.doi:10.3389/fmicb.2023.1290858.、202310	Review
53	Morimoto T, Hirata H, Kobayashi T et al.	整形外科	Gait analysis using digital biomarkers including smart shoes in lumbar spinal canal stenosis:a scoping review.	Front Med(Lausanne).2023 Dec 14;10:1302136.doi:10.3389/fmed.2023.1302136.、202312	Review
54	Morimoto T, Kobayashi T, Tsukamoto M et al.	整形外科	Sagittal-spinopelvic alignment improves in patients with bilateral highly dislocated hip(Crowe type IV)after subtrochanteric shortening total hip arthroplasty:A retrospective radiographic study.	Medicine(Baltimore).2024 Jan 19;103(3):e36966.doi:10.1097/MD.00000000000036966.、202401	Original Article
55	Morimoto T, Kobayashi T, Yamaguchi K et al.	整形外科	Gender Diversity of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research Annual Meetings from 2013 to 2022.	Spine Surg Relat Res. 2023 Oct13;8(1):91-96.doi:10.22603./ssrr.2023-0186.eCollection2024 Jan 270、202401	Original Article
56	Morimoto T, Hirata H, Nikaido T et al.	整形外科	Thoracic spina epidural hematoma misdiagnosed as conversion paralysis:A case report.	Clin Case Rep.2024 Jan 29;12(2):e8434.doi:10.1002/ccr3.8434. eCollection 2024 Feb.、202402	CaseReport
57	Morimoto T, Kobayashi T, Ito H et al.	整形外科	Serum periostin levels correlate with severity of intervertebral disc degeneration.	Eur Spine J. 2024 Feb 10. doi:10.1007/s00586-024-08162-4.、202402	Original Article
58	Morimoto T, Hirata H, Sugita K et al.	整形外科	A View on the skin-bone axis:unraveling similarities and potential of crosstalk.	Front Med(Lausanne).2024 Mar 4;11:1360483.doi:10.3389/fmed.2024.1360483. eCollection 2024.、202403	Review
59	Morimoto T, Hirata H, Watanabe K et al.	整形外科	The Usefulness of Deep Tendon Reflexes in the Diagnosis of Lumbar Spine Diseases:A Narrative Review.	Cureus.2024 Mar 8;16(3):e55772. doi:10.7759/cureus.55772. eCollection 2024 Mar.、202403	Review
60	Morimoto T, Kobayashi T, Hirata H et al.	整形外科	Perioperative Cerebrovascular Accidents in Spine Surgery:A Retrospective Descriptive Study and A Systematic Review with Meta-Analysis.	Spine Surg Relat Res.2023 Dec 27;8(2):171.179.doi:10.22603/ssrr.2023-0213.eCollection 2024 Mar 27.、202403	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
61	Yoshihara T, Morimoto T, Hirata H et al.	整形外科	Mechanisms of tissue degeneration mediated by periostin in spinal degenerative diseases and their implications for pathology and diagnosis:a review.	Front Med'(Lausanne).2023 Oct 31;10:1276900.doi:10.338 9/fmed.2023.1276900、 202310	Review
62	Yoshihara T, Morimoto T, Hirata H et al.	整形外科	Letter to the editor Concerning "Current state of preoperative embolization for spinal metastasis-A Survey by the EANS spine section"by Stefan Motaov et al.	Brain Spine.2024 Mar 20;4: 102788.doi:10.1016j.bas. 2024.102788.eCollection 2024、202403	Letter
63	Sakai T, Fujii M, Kitamura K et al.	整形外科	Biomechanical Effect of Distal Tibial oblique Osteotomy:A Preliminary Finite-Element Analysis.	Cureus.2024 Feb 7;16(2):e53803. eCollection 2024 Feb、 202402	Original Article
64	Tsukamoto M, Morimoto T, Yoshihara T et al.	整形外科	Ruptured mycotic aneurysm of intercostal arteries associated with vertebral osteomyelitis: a case report	J Cardiothorac Surg.2023 Apr 17;18(1):145.doi:10.1186/ s13019-023-02231-3、 202304	CaseReport
65	Tsukamoto M, Morimoto T, Yoshihara T et al.	整形外科	Letter to the Editor Concerning "Frequency of Change in assessment from Bony Union to Nonunion after Lumbar Interbody Fusion :A Multicenter Study"by Oba et al.	Spine Surg Relat Res.2023 Mar 13;7(3):293-294、 202305	Letter
66	Tsukamoto M, Morimoto T, Hirata H et al.	整形外科	Concerning "Magnetic Resonance Imaging Proxies for Segmental Instability in Degenerative Lumbar Spondylolisthesis Patients"by Elmore et al.	Spine(Phila Pa 1976).2023 Jul 1;48(13):E220.doi:10.1097 /BRS.0000000000004654. 、202307	Letter
67	Tsukamoto M, Morimoto T, Yoshihara T et al.	整形外科	A gigantic iliopsoas abscess in a patient with Alexander's disease.	Clin Case Rep.2023 Nov 19;11(11):e8118.doi:0.100 2/ccr3.8118、202311	CaseReport
68	Fujii M, Kawano S, Ueno M et al.	整形外科	Clinical results of periacetabular osteotomy with structural bone allograft for the treatment of severe hip dysplasia.	Bone Joint J.2023 jul1;105-B(7):743-750、 202307	Review
69	Hiroaki Kakinoki, Yukako Yamaguchi, Minika Yukimoto et al.	泌尿器科	A case of bleeding shock induced by injury of the intercostal artery following percutaneous nephrolithotripsy	IJU Case Reports(2024) 7(1):18-21、202401	CaseReport
70	Uemura Tetsuji	形成外科	A step forward for diabetic patients	Impact, Pub, 2023(3)55- 57、202309	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
71	Ohishi- Fukuchi J, Imamura Y, Orihashi R et al.	精神神経科	Salivary 3-methoxy-4-hydroxyphenylglycol and MRI-based volume change of the precuneus in community-dwelling elderly people	Psychogeriatrics 23(4) : 675-681、202307	Original Article
72	Kakiuchi T	小児科	Effectiveness of vonoprazan-based regimens compared with proton pump inhibitor-based regimens as first-line Helicobacter pylori agents	Front Pharmacol 19:14:1216433、202307	Original Article
73	Kakiuchi T	小児科	Adequate amounts of probiotics increase the success rate of Helicobacter pylori eradication therapy in children	Thearp Adv Gastroenterol. 24:16:1756284823119166 9、202308	Original Article
74	Kakiuchi T	小児科	Commentary: Association between Helicobacter pylori infection and metabolic syndrome and its components	Front Endocrinol 21:14:1270855、202308	Original Article
75	Kakiuchi T	小児科	Rights and wrongs of Helicobacter pylori testing and treatment in children	Thearp Adv Gastroenterol 26:16:1756284823119525 1、202308	Original Article
76	Kakiuchi T, Yoshiura M, Furukawa R et al.	小児科	Middle-term natural course after acute pancreatitis associated with pancreas divisum	Clin Case Rep 11(4):e7255、202304	CaseReport
77	Kakiuchi T	小児科	Gastroscopy is not always mandatory in all gastric multiple magnet ingestion cases	Acta Paediatr 2024 Jan;113(1):155- 156、202401	Letter
78	Kakiuchi T, Yoshiura M	小児科	Dark Red Reticulated Cutaneous Vascular Network on the Lower Limb	Indian J Pediatr 2024 Feb;91(2):194、 202402	CaseReport
79	Kakiuchi T, Nosyo T, Oka M et al.	小児科	Hyperammonemia in acarbamoyl-phosphatesynthetase 1 deficiency recipient after living-donor liver transplantation from a carrier donor: a case report	Front Med (Lausanne) 2024 Jan 3:10:1327854、 202401	CaseReport
80	Kakiuchi T,MD,PhD	小児科	Important Recommendations Regarding the Test-and-Treat Strategy for Helicobacter pylori Infection in Children	Inquiry 2024 Jan- Dec:61:469580231222649 、202401	Letter

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
81	Kakiuchi T	小児科	Accurate evaluation of pediatric Helicobacter pylori heteroresistance contributes to further improving the quality of tailored therapy	ediatr Res 2024 Feb 7、202402	Letter
82	Nishino M, Kakiuchi T, Fukuda K et al.	小児科	Case Report A pediatric case of repeated false-positive urea breath test for Helicobacter pylori without decreased gastric acid secretion	Front Med (Lausanne) 10:1267180、202309	CaseReport
83	Sanefuji M, Maeda T, Kumamoto T et al.	小児科	Heart rate variability analysis of electrocardiography in pediatric immune-mediated autonomic neuropathy	Neuroimmunology Reports Vol. 4 100187. 、202312	Original Article
84	Masazumi Ikeda, Yuko Oshima, Keisuke Tsumura et al.	産科婦人科	Antibiotic administration reduced intra-amniotic inflammation 7 days after preterm premature rupture of the membranes with intra-amniotic infection.	J Matern Fetal Neonatal Med. 2023 Dec;36(2).、 202312	Original Article
85	Okugawa K, Yahata H, Ohgami T et al.	産科婦人科	An update of oncologic and obstetric outcomes after abdominal trachelectomy using the FIGO 2018 staging system for cervical cancer: a single-institution retrospective analysis.	J Gynecol Oncol. ;34(3):e41.、202305	Original Article
86	Misako Hideshima, Mariko Hashiguchi, Atsuko Honda et al.	産科婦人科	Are HPV-negative lesions concerned for the introduction of primary HPV testing for cervical cancer screening in Japan?.	The journal of obstetrics and gynaecology research Volume49, Issue12 2860- 2867.、202312	Original Article
87	Tajima A, Sassa Y, Ishio D et al.	眼科	Clinical features of 26 cases of COVID-19-associated conjunctivitis.	Jpn J Ophthalmol. 2024; 68: 57-63.、202401	Original Article
88	Moriyasu Yamauchi, Akimichi Minesaki, Tomoya Ishida et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Induction Chemotherapy With 5-Fluorouracil, Cisplatin, and Cetuximab in Advanced Head and Neck Squamous Cell Carcinoma	In Vivo 37(3):1275-1280.、202305	Review
89	Moriyasu Yamauchi, Yuki Sato, Tomoya Ishida et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Cetuximab Plus Concurrent Radiotherapy in Patients With Nasopharyngeal Carcinoma	In Vivo 37(5):2224-2228.、 202309	Original Article
90	Moriyasu Yamauchi, Tomoya Ishida, Akimichi Minesaki et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	WPOI-4/5 Correlates With Lymph Node Recurrence and Poor Prognosis in Early-stage Tongue Squamous Cell Carcinoma	Cancer Diagn Progn .3(4):457-462.、202307	Original Article



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
91	Yamashita Y, Aijima R, Danjo A	歯科口腔外科	Clinical effects of different virtual reality presentation content on anxiety and pain: a randomized controlled trial	Scientific Reports Vol.13(1): 20487、202311	Original Article
92	Aijima R, Yamashita Y	歯科口腔外科	Effectiveness of perioperative oral hygiene management using a cetylpyridinium chloride-, dipotassium glycyrrhizinate, and tranexamic acid-based mouthwash as an adjunct to mechanical oral hygiene in patients with maxillomandibular fixation: A randomized controlled clinical trial	Clin. Exp. Dent. Res. 9:1044-1050、202312	Original Article
93	Hiroyuki Koami, Yuichiro Sakamoto, Ayaka Matsuoka et al.	救急科	Thromboelastometric Analysis of the Correlation Between Burn-Induced Coagulopathy and Severity of Burn Injury	Cureus. 2024 Feb 19;16(2):e54489. doi: 10.7759/cureus.54489. eCollection 2024 Feb.、 202402	Original Article
94	Furukawa Y, Kobayashi T, Koami H et al.	救急科	Deep Vein Thrombosis in the Aftermath of Earthquakes: Differences by Country and Screening Location in Factors That May Cause Significant Heterogeneity.	Disaster Med Public Health Prep. 2023 Nov 30;17:e543. doi: 10.1017/dmp.2023.210.P MID: 38031261 No abstract available., 202311	Original Article
95	Kota Shinada, Ayaka Matsuoka, Hiroyuki Koami et al.	救急科	Bayesian network predicted variables for good neurological outcomes in patients with out-of-hospital cardiac arrest	PLOS ONE   <a href="https://doi.org/10.1371/journal.pone.0291258">https://doi.org/10.1371/journal.pone.0291258</a> September 28, 2023、 202309	Original Article
96	Tago M, Hirata R, Katsuki NE et al.	総合診療部	Validation of Predictive Model for Inpatient Falls (Saga Fall Risk Model 2) in a University Hospital: A Retrospective Single-Center Study	J Hosp Gen Med, Vol.5, No.3: 53-61、202305	Original Article
97	Tago M, Hirata R, Shikino K et al.	総合診療部	The Milestones of Clinical Research for Young Generalist Physicians: Conducting and Publishing Studies	Int J Gen Med. Vol.16: 2373-2381、202306	Others
98	Tago M, Hirata R, Katsuki NE et al.	総合診療部	Contributions of Japanese Hospitalists During the COVID-19 Pandemic and the Need for Infectious Disease Crisis Management Education for Hospitalists: An Online Cross-Sectional Study	Risk Manag Healthc Policy, Vol.16: 1645- 1651、202308	Original Article
99	Tago M, Hirata R, Fujiwara M et al.	総合診療部	Narrative review of predictive models of the prognosis of emergency inpatients in acute care hospitals	J Hosp Gen Med, 5巻3号: 97-102、202305	Review
100	Tago M, Hirata R, Hirakawa Y et al.	総合診療部	Listeria meningitis diagnosed by blood culture with fever, neurological symptoms, and no meningeal irritation signs	Clin Case Rep, Vol.11, No.10: e8020、202310	CaseReport

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
101	Tago M, Hirata R, Katsuki NE et al.	総合診療部	Validation and Improvement of the Saga Fall Risk Model: A Multicenter Retrospective Observational Study	Clin Interv Aging, Vol.19: 175-188、202402	Original Article
102	Tago M, Hirata R, Takahashi H et al.	総合診療部	How Do We Establish the Utility and Evidence of General Medicine in Japan?	Intern J Gen Med, Vol.17: 635-638、202402	Others
103	Tago M, Hirata R, Katsuki NE et al.	総合診療部	Predictive Models of Falls: A Narrative Review	J Hosp Gen Med, Vol.6, No.1: 12-16、202401	Review
104	Yaita S, Tago M, Katsuki NE et al.	総合診療部	A Simple and Accurate Model for Predicting Fall Injuries in Hospitalized Patients: Insights from a Retrospective Observational Study in Japan	Med Sci Monit, Vol.29: e941252、202308	Original Article
105	Yamashita S, Tago M, Tokushima Y et al.	総合診療部	Evaluation of a Previously Developed Predictive Model for Infective Endocarditis in 320 Patients Presenting with Fever at 4 Centers in Japan Between January 2018 and December 2020	Med Sci Monit, Vol.29: e939640、202304	Original Article
106	Yamashita S, Nakamura M, Akutagawa T et al.	総合診療部	Polybacterial Iliopsoas Muscle Abscess as an Indication for Early Diagnosis of Crohn's Disease	AM J Case Rep, Vol.24: e941399、202311	CaseReport
107	Yamashita S, Tago M, Tokushima M et al.	総合診療部	Effects of a 60-Minute Lecture About Diagnostic Errors for Medical Students: A Single-Center Interventional Study	Cureus, Vol.16, No.3: e56117、202403	Original Article
108	Hirata R, Tago M, Yamashita S et al.	総合診療部	Acute abdominal pain due to atypical bilateral adrenal infarction in acute myeloid leukemia with alterations related to myelodysplasia: A case report	Clin Case Rep, Vol.11, No.10: e7925、202309	CaseReport
109	Hirata R, Katsuki NE, Shimada H et al.	総合診療部	The Administration of Lemborexant at Admission is Not Associated with Inpatient Falls: A Multicenter Retrospective Observational Study	Intern J Gen Med, Vol.17: 1139-1144、202403	Original Article
110	Hirata R, Nakamura M, Yamada S et al.	総合診療部	Relapsing polychondritis presenting with chronic cough and costal cartilage tenderness	BMJ Case Rep, Vol.17, No.2: e259645、202402	CaseReport

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
111	Tokushima Y, Tago M, Yamashita S et al.	総合診療部	A Dementia Care Unit in an acute care setting may improve outcomes for patients with dementia: a prospective single-center study	J Hosp Gen Med, Vol.5, No.5: 190-195、202309	Original Article
112	Ishibashi Y, Sogawa R, Ogata K et al.	薬剤部	Association Between Antidiabetic Drugs and Delirium: A Study Based on the Adverse Drug Event Reporting Database in Japan	Clin Drug Investig, 44(2):115-120.、202402	Original Article
113	Kubo T, Matsuo S, Sogawa R et al.	薬剤部	Monitoring of blood levels in patients administered CYP3A4 inhibitor during the maintenance phase of venetoclax administration	Int J Clin Pharmacol Ther, 62(1):56-60.、202401	CaseReport
114	Furuno T, Sogawa R, Hashimoto T et al.	薬剤部	Association between the Prognostic Nutritional Index and the Occurrence of Immune-Related Adverse Events	Biol Pharm Bull, 47(2):361-365.、202402	Original Article
115	Satoshi Oeda,Yuya Seko,Hideki Hayashi et al.	肝疾患センター	Validation of the utility of Agile scores to identify advanced fibrosis and cirrhosis in Japanese patients with nonalcoholic fatty liver disease	Hepatology Research. 53,6,489-496、202306	Original Article

計 115件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準拠すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 臨床研究に係る業務、重篤な有害事象及び不具合等に対して研究者等が実施すべき事項 に関する事 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 利益相反の管理について、利益相反の手続きについて 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 12 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 臨床研究法、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に関する事 等	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

膠原病疾患等指定難病の診断と治療に関する研修 神経内科診療に関する勉強会 末梢神経病理に関する勉強会 筋電図講習会 等 計 78 件
--

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	514 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
多田 芳史	膠原病・リウマチ内科	診療科長	39年	
小池 春樹	脳神経内科	診療科長	29年	
野出 孝一	呼吸器内科	診療科長	36年	
木村 晋也	血液・腫瘍内科	診療科長	38年	
野出 孝一	循環器内科	診療科長	36年	
宮園 素明	腎臓内科	診療科長	31年	
江崎 幹宏	消化器内科	診療科長	32年	
安西 慶三	肝臓・糖尿病・内分泌内科	診療科長	38年	
杉田 和成	皮膚科	診療科長	22年	
能城 浩和	一般・消化器外科	診療科長	39年	
平塚 昌文	呼吸器外科	診療科長	34年	
蒲原 啓司	心臓血管外科	診療科長	31年	
阿部 竜也	脳神経外科	診療科長	34年	
馬渡 正明	整形外科	診療科長	41年	
野口 満	泌尿器科	診療科長	37年	
上村 哲司	形成外科	診療科長	37年	
松尾 宗明	小児科	診療科長	39年	
横山 正俊	産科婦人科	診療科長	40年	
江内田 寛	眼科	診療科長	30年	
杉山 庸一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	診療科長	23年	
山田 信一	ペインクリニック・緩和ケア科	診療科長	32年	

入江 裕之	放射線科	診療科長	38年
浅見 豊子	リハビリテーション科	診療科長	40年
坂口 嘉郎	麻酔科蘇生科	診療科長	37年
溝口 義人	精神神経科	副診療科長	26年
山下 佳雄	歯科口腔外科	診療科長	32年
阪本 雄一郎	高度救命救急センター	センター長	31年
青木 茂久	病理診断科	診療科長	26年
青木 洋介	感染制御部	部長	40年
多胡 雅毅	総合診療部	部長	19年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
・研修の主な内容	(1) 看護師の特定行為研修（術中麻酔領域パッケージ） (2) 看護師の特定行為研修（糖尿病関連）
・研修の期間・実施回数	R 4 . 1 0 . 1 ～ R 5 . 9 . 3 0
・研修の参加人数	(1) 3 名 (2) 2 名（他医療機関所属 2 名）
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）	
・研修の主な内容	
・研修の期間・実施回数	
・研修の参加人数	
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	
・研修の主な内容	
・研修の期間・実施回数	
・研修の参加人数	

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 <u>2. 現状</u>
管理責任者氏名	病院長 野口 満
管理担当者氏名	診療記録センター長 横山正俊、看護部長 宮之下さとみ、薬剤部長 島ノ江千里、放射線部長 小池春樹、総務課長 山崎欽哉、医事課長 畑瀬晋也

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	経営管理課	
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療記録センター	
		看護記録	診療記録センター	
		検査所見記録	診療記録センター	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療記録センター	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療安全管理室	
		高度の医療の研修の実績	総務課、医事課	
		閲覧実績	-	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営管理課
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
			医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

平成16年度に電子カルテを導入し、それ以前の診療記録は、1患者1ファイルで診療記録センターにて集中管理している。保存期間は20年間とし、診療記録の院外持出は、診療記録管理及び利用に関する規程により禁止している。エックス線写真は、放射線部において集中管理している。



		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	第四号	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	第五号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第六号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第八号	医療機器安全管理責任者の配置状況	MEセンター
	第九号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター
	第十号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
	第十一号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療記録センター
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録センター
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部 MEセンター
		監査委員会の設置状況	医学部総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務部総務課
		職員研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医学部総務課 医療安全管理室 薬剤部 MEセンター
		管理者が有する権限に関する状況	医学部総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	医学部総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	医学部総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画      2. 現状
閲覧責任者氏名	事務部長 北島 博文
閲覧担当者氏名	医事課長 畑瀬 晋也
閲覧の求めに応じる場所	医療相談室
閲覧の手続の概要	佐賀大学総務部総務課において、「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」に基づき、法人文書開示請求手続きが可能となっている。

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延		件
	歯科医師	延		件
	国	延		件
	地方公共団体	延		件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>第1 本院における医療安全管理に関する基本的考え方  第2 医療安全管理委員会及び医療安全に関する基本的事項  第3 従業者に対する医療に係る安全管理のための研修に関する基本方針  第4 本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針  第5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針  （医療安全管理委員会に報告すべき事例の範囲、報告手順を含む。）  第6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針  （患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む。）  第7 患者からの相談への対応に関する基本方針  第8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）  ・ 開催状況：年 12 回  ・ 活動の主な内容：</p> <p>（1）医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。  （2）発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。  （3）改善策の実施状況の調査及び当該策の見直しに関すること。  （4）医療事故防止のための教育・研修に関すること。  （5）その他医療安全管理に関し必要な事項</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>第1回  「MRI検査室 入室前の注意事項」  「ハリーコール発動について」  「①採血に係る注意点～不適合検体を減らすために～」  「②輸血過誤防止のための注意点」</p> <p>第2回  「当院における不眠症治療薬の標準化・抗がん剤血管外漏出対処方法の改訂」  「医療ガスについて」  「診療放射線の安全利用について」</p> <p>第3回  ・ 肺塞栓症予防について  「弾性ストッキング・フットポンプ装着の適応 ～血流評価～」  「現状と課題に対する今後の取り組み」  ・ 医療安全ニュース ダイジェスト</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

【問題点の把握】

医療安全管理室で、各部署からのインシデント・アクシデント速報システムによる報告を全て収集している。

【問題点の分析】

GRMが、収集事例の影響度を分類しサマリ化する。  
サマリした全事例を、定例の医療安全管理室会議にて分析する。

【改善策の検討】

- (1) 事象が発生した診療科や部署と、医療安全管理室で対応策を検討する。
- (2) 定例の医療安全管理室会議で、事例の共有、分析、対応策の検討を行う。
- (3) 必要時は、臨時で関連診療科や部門によるカンファレンスを開催し、事例の共有、分析、対応策の検討を行う。
- (4) 医療安全管理委員会において審議する。

【改善例】

- ・ デクスメトミジンの取り扱い作成, 周知
- ・ 身障者トイレ内へのナースコール設置
- ・ ME 機器清掃手順作成、周知
- ・ ゾルゲンスマ取り扱い調剤に関する手順書作成、周知
- ・ 高難度新規医療技術の実施報告・定期報告の手順見直し
- ・ 不眠症に対する標準治療薬の選定基準の作成、周知
- ・ ネクロプシー手順書作成、同意書作成, 周知
- ・ エスカレーターに車椅子を乗せる危険行為事例への対応
  - 1) エレベーター・エスカレーターの案内表示：サインボードの追加
  - 2) エスカレーター乗り口への乗り入れ禁止のポスター表示
- ・ MRI 検査前確認：貼付薬一覧表作成
- ・ 血管外漏出時の対処方法改訂、周知
- ・ 救急カート定数薬品見直し
- ・ 痰つまりによる窒息事例への対応
  - ナースステーション不在時のモニタリングシステム導入の検討
- ・ 急変対応時の緊急呼出ボタンの周知：医療安全ニュース No. 94 発行
- ・ 食事摂取による検査遅延事例への対応
  - 頸食道心エコーの患者案内票への表示：システム改修
- ・ PICC の血栓形成及び閉塞予防について作成、周知
- ・ 医療安全ポケットマニュアルの改訂
- ・ 中心静脈カテーテル・抜去に関してのマニュアル改訂、周知
- ・ 病院内トイレの鍵の取り扱い について作成、周知
- ・ ハリーコールアンケート調査報告し問題点の周知

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>第1 本院における院内感染対策に関する基本的考え方          第2 院内感染対策のための委員会その他本院内の組織に関する基本的事項          第3 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針          第4 感染症の発生状況の報告に対する基本的対応方針          第5 院内感染発生時の対応に関する基本方針          第6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針          第7 その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染の予防に関すること。          (2) 院内感染予防に係る情報の収集に関すること。          (3) 院内感染源及び感染経路の調査に関すること。          (4) 院内感染予防対策の確立に関すること。          (5) 感染制御部の運営に関すること。          (6) その他感染予防及び対策に関すること。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>第1回          「カテーテル関連血流感染症の診断」          「カテーテル関連血流感染症の治療」          「カテーテル関連血流感染症の感染対策」</p> <p>第2回          「MRSA感染症の脅威」          「MRSA感染症の治療」          「MRSA感染症の対策」          「排尿ケアチームの活動について」</p> <p>第3回          「生食ロックへの切り替えと注意点について」          「微生物検査における検体採取時の注意点」          「スピード注意！の抗菌薬」</p>	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (  有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

感染症法で届出が必要な場合は、主治医が報告書に記載し、診療科感染対策医、看護師長の確認のもと提出する。

新規発生MRSAやその他耐性菌については、感染制御部が各部署へ訪問し、治療及び感染対策の確認を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 15 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>全職員対象 「医療安全・院内感染対策研修会」当院における不眠症治療薬の標準化/抗がん剤血管外漏出対処方法の改訂/アレルギー情報入力時の注意点</p> <p>医師対象 院内における医薬品の適正使用</p> <p>看護師対象 輸液・シリンジポンプを使用する薬剤について/「薬」に関するイエローカードを用いた院内における医薬品の適正使用/抗がん剤について/手術部で使用する薬剤について/各部署で使用頻度の高い薬剤について/抗血栓薬について/褥瘡で使用される外用剤について等</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 ( 有・無 )</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>手順書に基づく業務の実施状況の確認として、各部門に対する医療安全スタッフで巡視を行っており、病棟等については下記を確認している。</p> <p>【確認内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定数医薬品保管証の薬品以外に余剰の薬品を置かない。</li> <li>・ 麻薬、向精神薬の保管状況・医薬品の保管場所の表示</li> <li>・ 冷所保存の医薬品が保管状況について</li> <li>・ 薬剤投与の際の二人チェックや準備での2度以上の薬剤確認等</li> <li>・ 薬剤部内では上記巡視に加え、全薬剤師を対象に手順書の記載内容の遵守状況を薬剤師相互にチェックしている。</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)：</p> <p>進行期有棘細胞癌に対するFP療法</p>	



・ その他の改善のための方策の主な内容：

調剤時の処方鑑査、病棟薬剤師による医薬品の使用状況等の確認および医師からの相談等で未承認等の医薬品の使用の情報を収集し、医療安全管理室専従薬剤師と評価し、定期的に医薬品安全管理責任者に報告し、必要に応じて院内の各種委員会で報告・検討している。また、医療安全管理室と協働して調剤上の疑義照会や病棟薬剤師からのプリアロイド報告などの事例や、各科に共通する重要な事例を選択して作成した「薬に関するイエローカード」を関連する診療科長に毎月配布し情報の共有化を図っている。

厚生労働省のHP、PMDAのHP、PMDAメーリングリスト登録による最新の医薬品情報、医薬品・医療機器等安全性情報（厚生労働省発行）、Drug Safety Update（医薬品安全対策情報）、日本医療機能評価機構HPの医療事故情報収集等事業からの「医療安全情報」及び製薬会社からの情報提供等を基に、重要で速やかな周知が必要な情報は随時、病棟担当薬剤師等を通じ各病棟・診療科へ案内し、その他の場合は「薬剤部からのお知らせ」として小冊子にまとめ月に1回、各病棟、各診療科へ配布している。緊急安全性情報・安全性速報、直近のPMDA医療安全情報等は医薬品情報室から病棟担当薬剤師等を通じて速やかに処方医、診療科・病棟へ案内するなど、必要な情報を必要な場所へ必要なタイミングで提供するように努めている。

これらの情報は、院内の医薬品情報(DI)のホームページで閲覧可能にしている。また、これらの医薬品情報等は医学生・薬学生等の教育資材としても活用している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無																				
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 52 回																				
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【医療機器関係】 48回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器等に関する研修会：10回</li> <li>・ シリンジポンプ、輸液ポンプ等の医療機器に関する研修：6回</li> <li>・ 新規導入医療機器に関する研修：20回</li> <li>・ 新規採用医療従事者等への研修：12回</li> </ul> <p>【放射線部関係】 4回</p> <table border="1" data-bbox="268 817 1353 1451"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>研修内容（テーマ・講師）</th> <th>研修期間</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>安全取扱講習会 Versa HD 木崎 莉玖 （キャノンメディカルシステムズ）</td> <td>令和5年5月29日 （17：00～18：00）</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>安全取扱講習会 FlexitronHDR 崔 淳石 他（千代田テクノル）</td> <td>令和5年8月24日 （17：15～18：15）</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>安全取扱講習会 Radixact 白石 昌樹 （アキュレイ）</td> <td>令和5年10月20日 （17：00～18：00）</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>安全取扱講習会 FlexitronHDR 崔 淳石 他（千代田テクノル）</td> <td>令和6年2月8日 （17：15～18：15）</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>		No	研修内容（テーマ・講師）	研修期間	参加人数	1	安全取扱講習会 Versa HD 木崎 莉玖 （キャノンメディカルシステムズ）	令和5年5月29日 （17：00～18：00）	7	2	安全取扱講習会 FlexitronHDR 崔 淳石 他（千代田テクノル）	令和5年8月24日 （17：15～18：15）	10	3	安全取扱講習会 Radixact 白石 昌樹 （アキュレイ）	令和5年10月20日 （17：00～18：00）	8	4	安全取扱講習会 FlexitronHDR 崔 淳石 他（千代田テクノル）	令和6年2月8日 （17：15～18：15）	10
No	研修内容（テーマ・講師）	研修期間	参加人数																		
1	安全取扱講習会 Versa HD 木崎 莉玖 （キャノンメディカルシステムズ）	令和5年5月29日 （17：00～18：00）	7																		
2	安全取扱講習会 FlexitronHDR 崔 淳石 他（千代田テクノル）	令和5年8月24日 （17：15～18：15）	10																		
3	安全取扱講習会 Radixact 白石 昌樹 （アキュレイ）	令和5年10月20日 （17：00～18：00）	8																		
4	安全取扱講習会 FlexitronHDR 崔 淳石 他（千代田テクノル）	令和6年2月8日 （17：15～18：15）	10																		
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 （ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）</li> <li>・ 放射線機器に係る計画の策定 （ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</li> </ul> <p>【医療機器関係】</p> <p>年度初めに医療機器管理システム（管理アプリケーション）の情報をもとに保守点検計画を策定する。医療機器管理システムの情報はスタッフが所有するタブレット端末から参照することが可能で、相互に情報を共有している。</p> <p>【放射線関係】</p> <p>製造業者の点検説明書及び添付文書に基づき、電気的安全点検、機械的安全点検、予防的点検等、保守点検表を作成し行っている。</p>																					

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集  
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (  ・ 無 )
- ・ 放射線機器に係る情報の収集の整備 (  ・ 無 )
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) :

【医療機器関係】

- ・ SMACプラス 中心静脈用カテーテル ダブルルーメンセルジンガータイプ 17G 8cm  
ルート確保困難な症例において上記中心静脈カテーテルを抹消静脈へ留置する。16名の患者へ使用し、治療を要した合併症が1例、発赤などの軽微な合併症が6例に認められた。現在、上記カテーテルは薬事承認取得済み。

【放射線部関係】 なし

- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

【医療機器関係】

- ・ 未承認新規高度管理医療機器に関する定期報告の実施。
- ・ PMDA、メーカーから情報を収集し、医療安全管理責任者、医療機器安全管理責任者へ報告。また、各セイフティマネージャおよび必要に応じ全職員へメールで周知。
- ・ 医療機器安全管理マニュアルの改訂。

【放射線部関係】

- ・ 各製造業者より安全情報が提供される。
- ・ 医薬品医療機器等安全性情報 (厚生労働省ホームページ) 及び医療機器関連情報 (医薬品医療機器総合機構ホームページ) より情報収集を行っている。
- ・ 製造業者より提供された情報文書を機器に携わる者へ閲覧させ、保存、ファイルしている。
- ・ 放射線部情報システム (RIS) を使用し、装置マニュアル及び安全管理マニュアルの閲覧ができる。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（<input checked="" type="checkbox"/>医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>毎週1回開催される医療安全管理室会議に室長として、また毎月1回開催される医療安全管理委員会に委員長として出席している。委員会には医薬品及び医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者も委員として出席しており、事例の共有や対策について協議・検討している。医療安全管理室会議においては、未承認新規医薬品・高難度新規医療技術の申請や報告に対し、確認と承認を行っている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> （1名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>調剤や病棟担当薬剤師から報告のあった疑義照会、プレアポイド・インシデント報告事項は、当該診療科長に文書にて案内し、薬事委員会、医療安全管理委員会で報告している。また、医療安全管理室と協働して、「薬」に関するイエローカードの文書を定期的に発行し周知している。また、医薬品情報室という専門の部署を設置し、PMDAらのメール等利用し医薬品に関する安全性情報、処方統計データなどについて一括して情報を収集・吟味・整理し、必要な情報を必要なタイミングで現場に周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>院内において未承認薬を用いた治療、ならびに医師から申請や調剤や病棟担当薬剤師から報告のあった適応外・禁忌使用を把握したものについて、医療安全管理室専従薬剤師がリスク、科学的妥当性を医薬品情報室等で評価検討し、当該治療の責任者は医薬品安全管理責任者とその実施の可否について協議する。医薬品安全管理責任者はその実施の可否について佐賀大学医学部附属病院未承認新規医薬品導入評価委員会の意見を聴く。医薬品安全管理責任者は、委員会からの意見書を参考に採否を決定し、当該診療科医師へ通知すると共に病院長へ報告する。その内容は医療安全管理委員会、運営協議会、各種関連会議に報告している。</p> <p>・担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種： （所属： 薬剤部 ， 職種 薬剤部長 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>（1）日々、診療記録センターでインフォームド・コンセントの記載について確認し、不備については指導を行っている。また、同意書のスキャン状況の確認も行っている。</p> <p>（2）医師、看護師、メディカルスタッフといった多職種からなる監査担当者が、ピアレビューの中でインフォームド・コンセントの内容も監査し、結果を診療記録委員会、病院運営協議会等で報</p>	

告している。必要に応じ、文書による指導を行っている。  
 (3) 手術・検査・特殊療法同意書(化学療法を含む)については書式を統一化し、新規または改訂時には診療記録委員で内容の審査を行う。承認されたものを電子カルテに掲載し使用可能としている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

- (1) 診療記録センター職員：日々の業務の中で、量的・質的監査を行い、不備に対しては掲示板やチェックリストにて通知している。不備の目立つ項目については、院内通知文を発行し、周知を図っている。
- (2) 医師、看護師、メディカルスタッフといった多職種からなる監査担当者：各監査担当者がチェックリスト(23項目)について、他科の診療記録の監査を行っている。
- (3) 診療記録委員：②の結果を診療記録委員会で報告し情報共有するとともに、病院運営協議会等に報告している。また、各診療科にフィードバックを行う際に、改善項目を通知している。全般的に不備の多い項目については、文書により指導を行っている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況 有・無

・所属職員： 専従(4)名、専任(1)名、兼任(16)名

うち医師：専従(1)名、専任(1)名、兼任(7)名

うち薬剤師：専従(1)名、専任( )名、兼任( )名

うち看護師：専従(2)名、専任( )名、兼任(1)名

(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- (1) 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。
- (2) 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
- (3) 患者や家族への説明など医療事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
- (4) 医療事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。
- (5) 医療安全に係る連絡調整に関すること。
- (6) 医療安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認に関すること。
- (7) その他医療安全対策の推進に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 7 件）、及び許可件数（ 7 件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）

・活動の主な内容：

（１）診療科等の長から高難度新規医療技術を用いた医療提供に関する規程（以下「規程」という。）第４条第１項に定める申請（以下「申請」という。）が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、規程第３条第１項に定める高難度新規医療技術評価委員会（以下「評価委員会」という。）に対して当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求めること。

（２）前（１）の意見の求めに応じ、評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対しその結果を適否結果通知書（様式第２号）により通知すること。

（３）当該高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合又はその他必要な場合には、診療記録等の記載内容を確認すること。

（４）高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうか、職員の遵守状況の確認を行うこと。

（５）高難度新規医療技術の提供の適否等について決定した時及び規程に定める事項の職員の遵守状況を確認した時に、その内容について病院長及び医療安全管理責任者に報告すること。

（６）評価委員会での審査資料及び議事概要並びに職員の遵守状況の確認記録を審査の日又は確認の日から少なくとも５年間保存すること。

（７）評価委員会に係る事務を行うこと。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 16 件）、及び許可件数（ 16 件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）

・活動の主な内容：

【高度医療機器】

当該診療科より未承認新規機器の患者への提供申出を受けた場合、未承認新規高度管理医療機器提供申請書及び審査内容確認書にて申請内容の確認を行うと共に、医療機器安全管理責任者はその実施の可否について未承認新規高度管理医療機器評価委員会の意見を求める。評価委員会では当該医療の提供の実施の「倫理性」、「科学的妥当性」及び院内で安全に行うことの「実現性」について審査する。医療機器安全管理責任者は評価委員会の意見を参考に適否を決定し、管理者への報告と当該診療科への通知を行う。また、当該未承認新規機器が適正な手続に基づいて使用されたかどうか、遵守状況等の確認を行う。

【医薬品】

未承認新規医薬品導入部門長である医薬品安全管理責任者が、未承認新規医薬品導入評価委員会の開催を依頼する。未承認新規医薬品導入評価委員会では当該治療実施の「倫理性」、「科学的妥当性」及び院内で安全に行うことの「実現性」について審査する。委員会の長は、当該未承認新規医薬品の使用の適否、使用条件、使用後に報告を求める症例等について、医薬品安全管理責任者に対して未承認新規医薬品導入意見書を用いて意見を述べる。また、科学的根拠が確立していない未承認新規医薬品については、有効性、安全性の検証の必要性や、当該医療機関の体制等を勘案した上で、臨床研究として使用する等、科学的根拠の構築に資する使用方法についても検討する。医薬品安全管理責任者は、委員会からの意見書を参考に採否を決定し、当該診療科医師へ通知すると共に病院長へ報告する。未承認新規医薬品等を用いた医療が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び当該未承認薬投与後に患者が死亡した場合又はその他必要な場合には、診療記録等の記載内容を確認する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  ・ 無 )

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 327 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 26 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - ・ 医療事故、死亡事例に係る情報の収集及び提供
  - ・ 発生した医療事故の原因分析及び改善策等の検討
  - ・ 改善策の実施状況の調査及び当該策の見直し
  - ・ 再発防止のための教育・研修に関すること

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (  (病院名： 鳥取大学医学部附属病院 ) ・ 無 )
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (  (病院名： 東北大学病院 ) ・ 無 )
- ・ 技術的助言の実施状況

【主な技術的助言事項】

- ・ インシデントレポートの報告数の増加
- ・ 医療放射線管理責任者の管理体制図への反映

【助言事項に対する対応と改善状況】

- ・ インシデントレポート事象レベル0の報告の必要性を医療安全情報にて周知等行い、インシデント事象レベル0の件数が増加した。
- ・ 安全管理体制図への反映を検討し、令和5年12月14日反映を行い周知した。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

佐賀大学医学部付属病院医療相談室内規に基づき、患者さん相談窓口として、「医療相談室」を設置し、対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

医療に係る安全管理のための研修を、主に e-learning システムを用いて実施し、年 2 回以上の受講を義務付けているほか、採用時研修（4 月）、中途採用者研修（毎月）の中で、特定機能病院に求められる医療安全管理体制、患者の安全確保のための手順と規則等を説明し周知している。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：特定機能病院管理者研修（令和 6 年 1 月 26 日受講）  
医療安全管理責任者：特定機能病院管理者研修（未受講） ※今年度中に受講予定  
医薬品安全管理責任者：特定機能病院管理者研修（令和 6 年 1 月 26 日受講）  
医療機器安全管理責任者：特定機能病院管理者研修（令和 6 年 1 月 15 日受講）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

■（公財）日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審 令和 5 年 7 月 13 日  
（一般病院 3、精神科病院：JC2106-2 号）

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院ホームページの掲載、病院 1 階ロビー等に掲示

・評価を踏まえ講じた措置

特筆すべき指摘事項はなかったため、特になし。

（注）記載時点の状況を記載すること



## 規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

### 管理者に必要な資質及び能力に関する基準

#### ・ 基準の主な内容

- (1) 人格が高潔で学識に優れ、かつ、医師免許を有している者  
人格が高潔で学識に優れ、地域及びグローバルな視野を持ち、医学教育、医学研究及び高度医療を担うことができる能力を有し、また、佐賀県や佐賀県医師会等と連携し、本院が佐賀県域において地域医療の中核的役割を果たす使命を達成することができる者で、かつ、医師免許を有している者
- (2) 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有する者  
高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として必要な医療安全管理業務(※)の経験並びに医療安全を第一に考える姿勢及び指導力等、医療安全管理について十分な知見を有し、医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者  
※医療安全管理業務とは以下のいずれかの業務をいう。
  - ①医療安全管理者、医療機器安全管理責任者の業務
  - ②医療安全管理委員会の構成員としての業務
  - ③医療安全管理部門における業務
  - ④その他上記に準じる業務
- (3) 病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有する者  
当院又は当院以外の病院での組織管理経験等、高度な医療を司る特定機能病院を管理運営する上で必要な資質・能力及び経営改善能力等の資質・能力を有し、病院構成員の意見反映に留意しつつ、医療を取り巻く様々な変化に適切に対応し、中長期的な目標に向かい具体的な構想を示し、強いリーダーシップを持って病院経営にあたり、適正な管理運営ができる者
- (4) その他以下に掲げる資質及び能力を有する者  
本院の理念である「患者・医療人に選ばれる病院を目指して」や病院目標を念頭に入れ、佐賀県域における医療の最後の砦である大学病院としての使命を認識し、高度急性期病院の体制と機能を強化し、超高齢化社会の医療の中核を担うとともに、地域医療及び先端医療への社会の要請に応えられる未来を担う医療人の育成に積極的に取り組むことができる者

・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (  有 ・ 無 )

・ 公表の方法

病院ホームページの「病院案内」の中で「病院長選考について」として専用ページを設け、関係規程等を掲載している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・ <input checked="" type="checkbox"/>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容  <p style="margin-left: 20px;">病院の管理運営，人事，経営及びその他病院に関する重要事項</p> </li> <li>・審議の概要の従業者への周知状況  <p style="margin-left: 20px;">毎月、各診療科長が出席する病院運営協議会及び病棟医長や外来医長が出席するチーフレジデント会議において、本会議の審議内容等を報告するとともに、病院ホームページにて、議事要旨を公開し、病院内職員への周知を図っている。</p> </li> <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</li> <li>・公表の方法  <p style="margin-left: 20px;">大学ホームページの「佐賀大学規則集」に掲載</p> </li> <li>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</li> </ul>	

合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
野口 満	○	医師	病院長
阪本 雄一郎		医師	副病院長
江崎 幹宏		医師	副病院長
島ノ江 千里		薬剤師	副病院長
宮之下 さとみ		看護師	副病院長、看護部長
山下 佳雄		歯科医師	副病院長
北島 博文		事務職員	副病院長、事務部長
小池 春樹		医師	病院長特別補佐
蒲原 啓司		医師	病院長特別補佐
吉田 ひとみ		看護師	副看護部長
溝口 弘		事務職員	経営管理課長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（  ・ 無 ）
- ・ 公表の方法

大学ホームページの「佐賀大学規則集」に掲載

- ・ 規程の主な内容

佐賀大学医学部附属病院の組織及び運営について定め、また、病院長が病院の管理運営に関することを総括し、病院に勤務する職員を監督することが定められている。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

【職名】副病院長（安全管理・災害対策担当）

【役割】主として病院における医療事故防止のための安全管理体制の確立及び危機管理体制の構築並びに災害対策実施に関する病院長の職務を補佐する。

【職名】副病院長（卒後臨床研修担当）

【役割】主として本院及び関連病院における研修指導及び専門能力を高めるための教育プログラムの構築に関する病院長の職務を補佐する。

【職名】副病院長（経営企画担当）

【役割】主として病院経営の充実を図るために企画立案及び経営の分析等経営管理に関する病院長の職務を補佐する。

【職名】副病院長（医療業務担当）

【役割】主として病院業務の改善と患者サービス向上に関する病院長の職務を補佐する。

【職名】副病院長（働き方改革・中期計画担当）

【役割】主として働き方改革への対応等、適正な勤務時間管理方法の企画立案並びに中期計画実施に関する病院長の職務を補佐する。

【職名】副病院長（管理運営担当）

【役割】適正な人員配置やコスト管理等、病院における管理運営の充実を図るための企画立案に関する病院長の職務を補佐する。

【職名】病院長特別補佐（広報・地域連携担当）

【役割】附属病院における広報・地域連携について、企画・立案するとともに、当面する諸課題及び病院長が必要と認める事項について、病院長を補佐する。

【職名】病院長特別補佐（環境改善・診療支援担当）

【役割】附属病院における環境改善・診療支援について、企画・立案するとともに、当面する諸課題及び病院長が必要と認める事項について、病院長を補佐する。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

病院長、副病院長、病院長特別補佐などの病院執行部はじめとする多職種が集まる病院執行部会議（定期開催：毎月2回）を実施している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>監査委員（外部委員）が確認したい部署及び業務内容等について院内ラウンドを実施し、現場の医療従事者及び医療安全管理室への質疑応答等の監査を行った。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>病院ホームページの「病院案内」の中で「医療安全監査委員会」として専用ページを設け、関係規程等を掲載している。</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
綾部 貴典	宮崎大学医学部 附属病院	○	医療機関において、医療安全に関する業務若しくは医療安全に係る研究に従事した経験を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者 その他の学識経験を有する者
前川 律子	公益社団法人 佐賀県看護協会		医療機関において、医療安全に関する業務若しくは医療安全に係る研究に従事した経験を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者 その他の学識経験を有する者
岩永 幸三	認定特定非営利活動法人 日本IDDMネットワーク		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

本学において定められた「法令遵守の基本方針」及び「国立大学法人佐賀大学における業務の適正を確保するための体制等について」に基づき、学長から指名された内部統制担当理事において、内部統制システムが有効に機能しているか、役員会の議を経て定められた項目について、役員会、大学運営連絡会等において状況の調査、確認を行い、必要に応じ、意見交換を行っている。

また併せて、監査室が実施する内部監査及び監事が実施する監事監査において、関連する事項についても監査を実施している。

・ 専門部署の設置の有無 (  ・ 無 )

・ 内部規程の整備の有無 (  ・ 無 )

・ 内部規程の公表の有無 (  ・ 無 )

・ 公表の方法

大学ホームページの「佐賀大学規則集」に掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況             国立大学法人佐賀大学役員会、国立大学法人佐賀大学経営協議会にて、病院経営状況及び運営状況等の報告を行い、各委員からは忌憚のない意見や質問を受け、回答を行うとともに、その後の運営等に反映させている。また、令和元年10月2日から国立大学法人佐賀大学医学部附属病院業務監督諮問委員会を設置し、必要に応じて管理運営状況等について協議し、意見を受ける体制となっている。</li>   <li>・ 会議体の実施状況             役員会（年 22 回）            経営協議会（年 4 回）            医学部附属病院業務監督諮問委員会（随時）</li>   <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数             役員会（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年 12 回）            経営協議会（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年 2 回）            医学部附属病院業務監督諮問委員会（有・<input type="checkbox"/>）</li>   <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</li>   <li>・ 公表の方法             大学ホームページの「佐賀大学規則集」に掲載</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。



規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0 件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none"><li>■ 電子カルテ上の医療安全管理室ホームページトップに掲載。</li><li>■ 平成28年度に開催した研修会で周知、以降は採用時研修の際に周知。</li><li>■ 採用時研修(4月)、中途採用者研修(毎月)の際に周知。</li><li>■ 医療安全管理ポケットマニュアルに「公益通報対応フローチャート」を掲載。</li></ul></li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要  病院ホームページへの掲載、病院広報誌、新聞・テレビ報道 等	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要  以下の横断的診療班（全 13 班）を設置している。  「褥瘡対策班」、「緩和ケア診療班」、「栄養サポート班」、「輸血療法室」  「臨床腫瘍班」、「脳卒中診療班」、「外来化学療法室」、「口腔ケアサポート班」、  「呼吸サポート班」、「糖尿病診療班」、「横断的止血・血栓診療班」、  「結節性硬化症ボード」、「院内急変対応班」	